

平成27年度 県立鬼怒商業高等学校自己評価表

| 目指す学校像 | 本県教育の目標・校訓をふまえ、地域社会の要望に応えながら、人間性豊かな個性の伸長を図り、教養ならびに専門的知識を高め、広い視野と適切な判断力、たくましい実践力を備えた、心身ともに健全な、国家社会の有為な人材を育成する。 | | |
|---|---|--|-----------------------|
| 昨年度の成果と課題 | 重点項目 | 重点目標 | 達成状況 |
| <p style="text-align: center;">平成27年度末に各部・各項目別に成果と課題について検討を加えた。</p> <p>教務部 ○各教科とも教材等の工夫をし、わかる授業の展開を心掛けていた。また、学習意欲の低い生徒に対する指導が放課後・長期休業をとおして実施された。 ○授業時間の確保には、教員間の意識が統一され、振替やもらい授業により自習時間が減少している。 ○心の教育では、1学年生徒全員がなんらかのボランティア活動に従事し、社会に奉仕する心を育み、地域社会に貢献することができた。 ○広報活動については、見やすいホームページを目指し、学校や商業教育等の情報を提供している。また、学校説明会や中学生の体験入学及び出前授業等を実施することで商業教育のPRを行っている。さらに鬼怒商だよりを作成し、近隣の小・中学校や学習塾、卒業生がいる企業などに配布した。 【次年度への課題】 ○わかる授業への更なる工夫と指導力向上を目指し、授業公開等の機会を増やし、研修の充実を図る。 ○授業参加への意義を大切にすべきであり、生徒への学習に対する意欲を持たせる。 ○生徒の実情に合う教育課程の編成を考える。 ○ボランティアの体験を生かし、地域の他のボランティア活動にも自主的・積極的に参加できるような生徒を育成することが必要である。 ○広報活動については、安定的な定員確保のために今後も様々な取組の充実を図る。</p> <p>進路指導部 ○各学年とも実施した進路ガイダンスや行事等が生徒の実態と本校の進路状況を踏まえた啓発的・体系的な内容であったことと、進路に関する情報を適切に得させる内容で大変良かった。進路決定率は、進学が97.7%、就職が98.7%である。(H28.1.22現在)現在、進学に於いて一般入試で大学を受験する者が2名おり、そして就職希望者への指導は引き続き行っている。 ○インターンシップについては、今年度25箇所の実習先に於いて就職希望者の91名が体験することができ、生徒にとって貴重な経験となった。 【次年度への課題】 ○今後も卒業まで規則正しい学校生活が送れるように日々の指導をしていかなければならないと思う。 ○インターンシップについては、次年度もこの形で進めたい。</p> <p>生徒指導部 ○接触事故に遭った場合、相手と話をし、その場で警察・学校・保護者に連絡が取れるよう指導の徹底。 ○問題行動の未然防止のための取り組みについて、講話、集会、学校生活アンケートのみでは難しいと感じた。 ○服装違反(女子のスカート丈)や遅刻について、チェックしても回数ごとの指導を実施できていないクラスもあり、生徒は違反を繰り返してしまう。 【次年度への課題】 ○問題行動の未然防止のための取り組みについて、LHRを活用して、様々な問題行動について考えさせる機会をつくりたい。 ○全職員が共通認識で取り組めるようにしたい。また、服装容儀強化週間の実施を考えたい。</p> <p>特活部 ○円滑な学校行事運営を実現できたが、体育祭では準備が不十分だったところがある。 ○生徒会活動の定例化や各部活動の目標設定については十分とはいえなかった。 ○運動部での美化活動については定期的に実施できた。 【次年度への課題】 ○次年度は文化祭があるので、早めに準備に取りかかりたい。 ○次年度以降、生徒会役員立候補者に対しては、生徒会活動について事前に理解させた上で立候補を承認していきたい。 ○運動部での美化活動については次年度も定期的を実施していきたい。</p> <p>環境整備部 ○教室のワックスかけ、モップ交換等年間計画通り実施できた。 ○年2回の校外・通学路のボランティア清掃は、部活動有志の協力を得て実施できた。 ○ゴミの分別に関しては、業者から数回クレームがあった。 【次年度の課題】 ○生徒の環境意識や美化意識を向上させるために、学期ごとの目標設定や実施方法を工夫改善していきたい。 ○ゴミの分別の徹底を図る。</p> <p>図書部 ○水害により図書の購入ができなかった分、来年度新しい本をそろえていきたい。 ○無断持ち出しがないように徹底したい。 ○図書日より予定どおり、発行できた。 ○水害のため図書室を授業、会議等多方面に利用することで結果的に利用率が高まった。 【次年度への課題】 ○新刊本を購入して、生徒の読書に対して興味関心を高めたい。 ○図書の無断持ち出しを防止しながら、一方で図書室利用率を高めていく方法を考えて行かねばならない。</p> <p>渉外部 ○PTA総会の出席率は43%で昨年をやや下回った。 ○PTA研修視察旅行とPTA支部研修会は水害のため自粛になった。 ○PTA本部役員会で水害にさいし、本部役員から各支部に働きかけ、約50万円が集まり寄付された。 ○スクールバスの運賃は、国土交通省の新基準に従い、値上げをせざるをえなかった。 【次年度への課題】 ○PTA総会の出席率の向上。 ○スクールバス運行委員会を中心に、今後の値上げがおこなわれないよう業者と交渉していく。</p> <p>保健厚生部 ○水害の為「臨時保健室」を設け対応した。利用者の増加とともにマナーの悪さや怠け的な目的での利用も見受けられた。 ○検診検査後、再検・要検査などを指導し改善を図れたと思われる。 ○各担任、教科担当者の協力と臨機応変な対応で適切に使用し、生徒の健康管理にも配慮できている。 【次年度への課題】 ○利用者のマナーの悪さや怠け的な利用者も見受けられたので、対策を検討したい。 ○検診検査時の生徒のマナーの改善が必要である。 ○防火・防災避難訓練の実施。</p> <p>情報管理部 ○ホームページの更新は、更新時期に合わせ不具合なく行うことが出来た。USB等外部記憶装置の使用について、水害で多くのPC機器が被害を受け9月からガイドライン通り行うことが出来なかった。クラウドの構築も年度末にずれ込んでしまった。システム変更の不具合は無かったが、被害を受けたシステムの復旧に手間が取られ、新しいシステムへの整備が後手になってしまった。 【次年度への課題】 ○新しいシステムへの整備を進めたい。</p> | 学力の向上 | <ul style="list-style-type: none"> ・わかる授業を推進し、学力の向上を図る。 ・授業時間の確保と授業内容の充実を目指す。 ・課題の提出や予習復習を徹底させて、家庭学習の習慣付けを行う。 ・授業観察等を通して、指導法を工夫改善し、指導力を高める。 ・学習意欲の低い者への組織的・計画的な指導を行う。 | B B B C B |
| | 安定的な定員の確保に向けて、 | 資格取得のための課外授業の実施に努める。 | B |
| | 商業教育の活性化と広報活動に | ・広報紙・ホームページ等で商業教育の広報活動を積極的に推進する。 | B |
| | 努める。 | ・地域と連携した商業教育の推進を行う。 | B |
| | | ・効果的な体験入学を実施する。 | B |
| | | ・メディアの情報に敏感に対応し、情報の共有化を図る。 | B |
| | 進路指導の充実 | <ul style="list-style-type: none"> ・進路に関する適切な資料や情報の提供、案内、説明、相談などのガイダンス機能の充実に努める。 ・キャリア教育を発達段階に応じて適切に実施することにより、自己の個性を理解し、主体的に進路を選択する能力や態度を育てる。 ・進路実現100%を目指し、進学課外や教職員及び外部講師による模擬面接指導などの推進に努める。 ・ホームルーム活動における進路学習や進路相談の内容を吟味し、段階的、系統的な展開に努める。 ・教職員による求人確保及び開拓を推進する。 ・就業体験(インターンシップ)をとおして職業意識の啓発を図るとともに、進路選択を具体的に意識させる。 | B B A B A |
| | 生徒指導の充実 | <ul style="list-style-type: none"> ・基本的生活習慣の確立に努める。 ・整容指導の徹底を図る。 ・問題行動や事故の未然防止に努める。 ・特別指導の充実改善を図る。 | B C B B |
| | 特別教育活動の活性化 | <ul style="list-style-type: none"> ・生徒会及びHR活動の活性化に努める。 ・部活動の活性化に努める。 ・文化祭等の学校行事の充実に努め、生徒の主体的参加を促す。 ・ボランティア活動を推進して、奉仕する喜びを知る。 | B B B B |
| | 安心・安全な学校づくりの推進 | <ul style="list-style-type: none"> ・心身ともに健康な生徒を育成する。 ・自主的に安全を守る能力を養う。 ・学校の環境衛生について適切な維持管理に努める。 | B B B |
| | コミュニケーション能力の育成 | ・自らの考えを口頭や文書で的確に表現する力を養う。 | B |
| | 及びビジネスマナーの修得に務める | <ul style="list-style-type: none"> ・挨拶の励行 ・他人の言葉や意見に素直に耳を傾け、相手の気持ちを推察する能力を養う。 ・ビジネスマナーの徹底 | B B B |

※ 評価基準 A：目標をはるかに上回った

B：目標を達成できた

C：目標にわずかに届かなかった

D：不十分

| 評価項目 | 具体的目標 | 具体的方策 | 評価 | 達成状況及び次年度への課題 |
|------|--|---|-------------|--|
| 国語 | 授業に意欲的に取り組む態度を育てる。 | ノートや課題集等を学期毎に（年間3回以上）点検することを通して、授業に集中して取り組む態度を育てる。 | B | 【達成状況】 ○単元ごとにノート提出を課し、ほぼ全員提出させることができた。 ○ほぼ全員がスピーチを実施することができた。担当者によってはプレゼンテーションまでできるようになった。 ○長期休業中に短歌・俳句の課題を与え、各種文学賞に応募し、入選者を出すことができた。 ○長期休業中の宿題を課し、提出させることができた。 【次年度への課題】 ○漢字検定に対する取り組み方を工夫していく必要がある。 ○ノートや課題の提出期限を守らない者が数名出たので、指導する必要がある。 ○スピーチに関しては、今後もできるだけ継続していきたい。 |
| | 場に応じた適切な表現力を身に付ける。 | 授業時間の冒頭にスピーチを行い、相手が理解できるように表情や話し方を工夫することで、コミュニケーション能力の向上を図る。 俳句・短歌等への積極的な応募を通し、複数入選を目指しながら、自らの感性を磨き、相手に伝える表現力を育てる。 | B B | |
| | 家庭学習の習慣化を図り、自発的な学習態度を育成する。 | 定期考査に向けて宿題を課したり、長期休業中（夏、冬）に課題集等を必修の宿題とするなどし、定期的な家庭学習の習慣を身に付けさせる。 | B | |
| | 社会のニュース等を積極的に教材に取り込むことで、授業への関心・意欲を高めていく。 | 発問を増やすことで、生徒の興味・関心を引きつける授業展開を心がける。 視覚教材や新聞、インターネット等の資料を効果的に活用する。 生徒が授業に参加するような対話型の授業展開も試みている。毎授業ごとに、生徒が発表できるよう発問や展開を工夫する。 | B B B | |
| 社会 | 教科の基礎学力の定着をはかる。 | 授業内容の確認プリントやノートの点検等きめ細かな指導を行い、理解度の低い生徒に対するフォローを実施する。ノートの点検は、年3回以上行う。 | A | |
| | 教科書の内容の定着を図り、発展的な事象も取り扱う。 | より多くの事例を通し、体験的に理解できるように工夫する。 課題や学習ノート提出により、理解不足の生徒への対応を迅速に行う。 各定期考査で、発展的な事象も取り入れ、60%以上の習熟を目指す。 | B A B | |
| 理科 | 基礎的な学習の向上を図る。 | 商業科・情報ビジネス科において、希望に応じて課外を実施する。 | B | 【達成状況】 ○課外の希望者がいなかったため、実施することができなかった。しかし進学先の課題に応じて説明会を行うことができた。 ○実験等は1学期まで予定通り実施できた。2学期以降は水害で実験できなかった。 ○最新の科学情報（DVD等）を使用して、科学の関心を深めることができた。 【次年度への課題】 ○化学実験室改修後は実験中心に授業を実施したい。 |
| | 科学に対する意識・関心を高め、科学的思考力を身につける。 | 身近な物質や現象、最新の科学情報等を話題として提供し、科学に対して関心を持たせる。 | A | |
| | 物理実験室・化学実験室利用を高める。 | 教室内の授業以外に実験室・屋外を利用して実験・実習を行う。 | B | |
| 体育 | 体力の向上と各種運動技能の習得に努める。 | 体力テストA及びBの割合を52.5%にする。 | A | 【達成状況】 ○体力テストのA及びBの割合は55.8%と高い数値を出すことができた。 ○卒業課題への取り組みは、1月中旬から体育館・武道場の床張替工事が入ってしまい、取り組み時間が削減され、未合格者数が増えてしまった。 ○クラスマッチ、体育祭ともに生徒主体で活動できたが、体育祭の予行練習では、準備不足もあり、生徒が勝手に動いたりまとまりがなかった。 ○なかなか担当者間の都合が合わず、まとまった実技研修ができなく、各個人に任せてしまった。 ○9月の水害被害など、その時期のニュース等を取り上げて授業を行うことができた。 【次年度への課題】 ○今年度達成できた目標を引き続き達成できるよう継続して指導していくとともに、卒業課題への取り組みや研修会の実施を積極的に行っていく。 |
| | できる喜びを実感できる授業実践に努める。 | 卒業課題の合格率90%以上を目指す。 | C | |
| | 体育的行事とのタイアップをはかる授業を展開する。 | クラスマッチ、体育祭等の学校行事に向けた意識付けにおいて、集団における協調性を身につけさせる。 | B | |
| | よりよい体育授業の実践を図る。 | 担当者全員による学期1回以上の実技研修会を実施する。 | C | |
| 保健 | 生涯にわたって必要な知識・技能の習得を図る。 | 最近話題のニュースを取り上げ、生徒の実生活に密着するよう、各場面での思考・判断能力を養う授業展開を図る。 | B | |
| 英語 | 基礎学力の向上に努める。 | 単元ごとに小テストを実施し、基礎学力強化を目指す。 課題や学習ノート提出により、理解不足の生徒への対応を迅速に行う。 | B B | 【達成状況】 ○パフォーマンステストをきっかけに、全商スピーチコンテストに多数参加できた。次年度も全国大会出場を目指したい。 ○各学年とも、座学から実践的な学習への移行が進みつつある。 ○成績不振者については、対策課外を実施し、補講を行った。 ○全商英検については、夏期講習・放課後講習などを実施し、3級合格60%の合格率であった。また、1級の合格者は年間2名、2級合格者は年間10名であった。 ○ペアワーク、グループワーク、パフォーマンステストなどを実施してコミュニケーション能力の育成に努めることができた。 【次年度への課題】 ○英語検定試験の上位級の受験者を増加させること。 ○CAN-DO リストの活用をすること。 |
| | 資格取得のための指導に努める。 | 全商英検3級合格60%を目標に、上位の級の合格者も出るように合格対策課外を実施する。 | A | |
| | 実践的コミュニケーション能力の向上に努める。 | LL教室や音声教材を効果的に活用し、コミュニケーションに必要なリスニング能力を強化する。 学期に1回パフォーマンステストを実施し、実践的なコミュニケーション能力を育成する。 | B A | |
| | 基礎的・基本的な知識と技術を理解させ、実践的な能力や態度を身につけさせる。 | 実験・実習を多く取り入れ、具体的にわかりやすい授業を展開する。 プリントやワーク点検等を通して、基礎的な知識を定着させる。 | C B | |
| 家庭 | 生徒の実態に応じた個別指導を充実させる。 | 実習授業において、個別指導や補講を行い、全員に作品完成の達成感を持たせる。 | B | |
| | 家庭生活の充実向上を図る能力と実践的な態度を育てる。 | ホームプロジェクト活動を通して、家庭生活の質を向上させる。 | B | |
| 商業 | 学力の向上を図る。 | 学力向上のための検定試験全体で、60%以上の合格を目指す。そのための課外と平常時の課外を実施する。 科目ごとに授業研究を行い、工夫改善をして学力向上に努める。 | B B | 【達成状況】 ○今年度は北関東簿記検定と全商簿記検定時に課外を実施した。その他の検定については今後検討することが必要である。現時点ではすべての検定が終了していないが、60%は超えることができた。 ○科目ごとに教材研究や工夫をおこない学力の向上につとめた。 ○体験入学では25中学・423名の参加、出前授業は3年目になり、13中学・1466名の参加者がいた。商業教育の理解と推進がされていると思われる。 ○総合実践ではコミュニケーション能力検定を実施、80%を超えることができた。 【次年度への課題】 ○商業教育の目標を明確にし、協力していきたい。 |
| | 商業教育の広報活動に努める。 | 商業教育の理解を深め、地域と連携した商業教育の推進を図るため体験入学や出前授業を実施する。 | B | |
| | ビジネスにおける実践力の育成を図る。 | 総合実践をはじめ、すべての商業科目の中でビジネスマナー及びコミュニケーション能力を身につける工夫をし、育成する。 | B | |
| | | | | |

※ 評価基準 A：目標をはるかに上回った B：目標を達成できた C：目標にわずかに届かなかった D：不十分

| 評価項目 | 具体的目標 | 具体的方策 | 評価 | 達成状況及び次年度への課題 | |
|--------------------|------------------------------------|---|---|--|---|
| 校務分掌 | 教務 | 学力の向上に努める。 | わかる授業の展開と学習意欲の喚起をする。 | B | 【達成状況】 ○各教科とも教材等の工夫をし、わかる授業の展開を心掛けていた。 ○水書があり、予定通りに授業公開・週間が実行できず、生かされていなかった。 ○教科によって、放課後・長期休業をとおして実施されたものもある。 ○突発的な自習にも対応でき、自習時間は週平均2時間以内であり、振替等の徹底が図れた。 ○今の生徒の現状と合っているかどうか疑問である。教員側の教材研究の不足もあるように思う。研修への参加も重要。 ○内規については、今後、現状をみて改善したい。 ○放課後・長期休業をとおして実施されている。 【次年度への課題】 ○わかる授業への更なる工夫と指導力向上を目指し、授業公開等の機会を増やし、研修の充実を図る。 ○授業参加への意義を大切にすべきであり、生徒への学習に対する意欲を持たせる。 ○生徒の実情に合う教育課程の編成を行う。 ○内規に関しては現状を考慮し、より良いものに改正していく。 |
| | | | 指導力向上のために授業公開週間を設け、教師のスキルアップを図る。 | C | |
| | | | 学習意欲の低い者への組織的・計画的な指導を行う。 | B | |
| | | 授業時間の確保に努める。 | 年休・出張の際の授業を原則振り替えとし、週当たりの自習時間を2時間以内とする。 | B | |
| | | 教育課程の編成に努める。 | 本校の目指す学校像や生徒のための教育課程を編成する。 | B | |
| | | 内規の検討をする。 | 本校の現状をふまえ、改正した内規の問題点を話し合う。 | B | |
| | | 学業不振による転退学者の減少を目指す。 | 成績不振の生徒のために補習や課外を計画的に行う。 | B | |
| | | 心の教育担当：奉仕の精神や社会貢献への関心を高め、社会連帯の精神を育てる。 | 結城特別支援学校との交流事業や地域イベント等におけるボランティア活動を推進し、社会に奉仕する心を育む。 | A | |
| | | 各ボランティア活動の事前・事後指導を確実にし、道徳の授業との連携を図る。 | B | | |
| | ボランティア活動を全員に体験させ、豊かな心・地域に貢献する心を育む。 | | | | ※心の教育 【達成状況】 ○1学年生徒全員がなんらかのボランティア活動に従事し、社会に奉仕する心を育み、地域社会に貢献することができた。 【次年度の課題】 ○ボランティアの体験を生かし、地域の他のボランティア活動にも自主的・積極的に参加できるような生徒を育成することが必要である。 |
| | 生徒指導 | 生徒全員に朝の挨拶をさせる | 登校指導において、挨拶がかえってくるまで呼びかけていく。 | B | 【達成状況】 ○接触事故に遭った場合、相手と話し、その場で警察・学校・保護者に連絡が取れるよう指導の徹底。 ○問題行動の未然防止のための取り組みについて、講話、集会、学校生活アンケートのみでは難しいと感じた。 ○服装違反(女子のスカート丈)や遅刻について、チェックしても回数ごとの指導を実施できていないクラスもあり、生徒は違反を繰り返してしまう。 【次年度への課題】 ○問題行動の未然防止のための取り組みについて、LHRを活用して、様々な問題行動について考えさせる機会をつくりたい。 ○全職員が共通認識で取り組めるようにしたい。また、服装容儀強化週間の実施を考えたい。 |
| | | 服装・頭髪等について校則を守らせる | 登校指導、授業、休み時間等において、違反を見逃さず、全職員で呼びかけていく。服装チェックカードを活用し、段階的指導を行い、校則違反をなくすよう努める。 | C | |
| | | 遅刻者数を大幅に減らす | 8時35分過ぎに昇降口と教室でダブルチェックをして遅刻の取り扱いを統一する。遅刻カードを活用して段階的な指導を行い、遅刻の防止に努める。 | B | |
| | | 交通ルールを守らせ、事故を未然に防ぐ | 校外指導を実施したり、普段からHR等で注意を呼びかけてもらう。また、自転車点検・交通安全講話、バイク実技講習会・四輪車安全運転教室等を実施する。 | B | |
| | | 問題行動を未然に防ぐ | 全職員による立哨指導および校内巡回で昼休みの生徒の動向を把握したり、服装検査や様々な集会等で、起こりうる問題行動等について注意を促す。 | B | |
| | | 教育相談活動の充実 | 教師の指導に加えて、スクールカウンセラーによる生徒へのカウンセリング、保護者への指導・助言等により、教育相談体制の一層の充実化を図る。 | B | |
| | | | | | |
| | 特別活動 | 生徒会・HR活動の活性化につとめる。 | 生徒会役員を中心に、生徒会組織を生かした学校行事運営を図る。 | B | 【達成状況】 ○円滑な学校行事運営を実現できたが、体育祭では準備が不十分だったところがある。 ○生徒会活動の定例化や各部活動の目標設定については十分とはいえなかった。 ○運動部での美化活動については定期的に実施できた。 【次年度への課題】 ○次年度は文化祭があるので、早めに準備に取りかかりたい。 ○次年度以降、生徒会役員候補者に対しては、生徒会活動について事前に理解させた上で立候補を承認していきたい。 ○運動部での美化活動については次年度も定期的実施していきたい。 |
| | | 部活動を活性化させ、年間を通して加入率40%の維持に努める。 | 各部活動の目標を設定させ、意欲的な取り組みを促す。 | B | |
| | | | 部活動の生徒を中心に、学校周辺の美化活動等に取り組む。 | B | |
| | | クラスマッチ、体育祭等の学校行事に対し、生徒の主体的参加を促す。 | 生徒間の協議を活発化させることで、学校行事の充実を図る。 | A | |
| | 進路指導 | 進路保障と生徒個人に対する進路指導を展開する。 | 生徒の個性を理解し、主体的に進路を選択する能力や態度を育てるキャリア教育を適切に実施する。 | B | 【達成状況】 ○各学年とも実施した進路ガイダンスや行事等が生徒の実態と本校の進路状況を踏まえた啓発的・体系的な内容であったこと、進路に関する情報を適切に得させる内容で大変良かった。進路決定率は、進学が97.7%、就職が98.7%である。(H28.1.22現在)現在、進学に於いて一般入試で大学を受験する者が2名おり、そして就職希望者への指導は引き続き行っている。 ○毎年進路決定後に欠席や遅刻が若干多くなる生徒が出てくるので現在も企業へ生徒の出席状況や課題等を送付している。 ○インターンシップについては、今年度25箇所の実習先に於いて就職希望者の91名が体験することができ、生徒にとって貴重な経験となった。 【次年度への課題】 ○今後も卒業まで規則正しい学校生活を送れるように日々の指導をしていかなければならないと思う。 ○インターンシップについては、次年度もこの形で進めたい。 |
| | | | 進路未決定者に対するきめ細かな指導をする。 | A | |
| | | | 進路実現100%を目指し、進学課外や教職員及び外部講師による模擬面接指導などの推進に努める。 | A | |
| | | 積極的に進路ガイダンスを行う。 | 進路に関する適切な資料や情報の提供、案内、説明、相談などのガイダンス機能の充実を努める。 | B | |
| | | 求人確保及び開拓を行う。 | 教職員による求人確保及び開拓を推進する。 | B | |
| | | インターンシップをとおして職業意識の啓発を図る。 | 就業体験(インターンシップ)をとおして職業意識の啓発を図るとともに、進路選択を具体的に意識させる。 | A | |
| | 環境整備 | 自ら率先して清掃を行う態度を養う。 | 教室のワックスがけ、モップ交換を定期的に年間4回行う。 | A | 【達成状況】 ○教室のワックスがけ、モップ交換等年間計画通り実施できた。 ○清掃を毎日実施できたが、生徒の美化意識の向上は、今後とも課題である。 ○学期ごとの具体的目標が設定できなかった。 ○年2回の校外・通学路のボランティア清掃は、部活動有志の協力を得て実施できた。 ○ゴミの分別に関しては、業者から回数クレームがあった。 【次年度の課題】 ○生徒の環境意識や美化意識を向上させるために、学期ごとの目標設定や実施方法を工夫改善していきたい。 ○ゴミの分別の徹底を図る。 |
| | | 清掃監督を毎日きちんと行い、生徒の美化意識の向上に努める。 | B | | |
| | | 学期毎の目標を設定して、環境衛生面での意識の向上を図る。 | C | | |
| 環境問題等に関する意識の向上を図る。 | | 学校周辺の空き缶・空き瓶・ごみ等の清掃を年2回行い、教育環境に関心を持たせる。 | A | | |
| | | ゴミの分別をきちんとさせ、環境問題にも関心を持たせる。 | C | | |
| 保健厚生 | 生徒の心身の健康増進を図る。 | 保健室の効果的な運営に努める。 | C | 【達成状況】 ○水害の為「臨時保健室」を設け対応。利用者のマナーの悪さが目立った→掲示物にて注意喚起し改善を図った。 ○今年度は利用者が増えた。怠け的な利用者も見受けられた。 ○検診検査後、再検・要検査などを指導し改善を図れたと思われる。 ○性教育講座を保健師に依頼し第1学年で実施。時期、内容は適切であったと思われる。継続実施していきたい。 ○防火防災避難訓練は、水害による警報装置などの故障により未実施。 ○各担任、教科担当者の協力と臨機応変な対応で適切に使用し、生徒の健康管理にも配慮できている。 ○水害により当初予定していた時期をずらして実施。異常なし。 ○部会をほとんど設けられなかったため定期的な開催をできるよう計画したい。 【次年度への課題】 ○利用者のマナーの悪さや怠け的な利用者も見受けられたので、対策を検討したい。 ○検診検査時の生徒のマナーの改善が必要である。 ○防火・防災避難訓練の実施。 | |
| | | 諸検診の効果的な実施に努める。 | B | | |
| | | 専門家による性教育を実施する。 | B | | |
| | 学校生活の安全教育に努める。 | 防火・防災避難訓練やAED講習会を実施するとともに、危機管理マニュアルの見直しを行う。 | C | | |
| | 学習環境を整備する。 | エアコン、ストーブの安全管理および生徒の健康管理に努める。 | B | | |
| | | 水質検査および室内環境検査等を実施する。 | B | | |

※ 評価基準 A：目標をはるかに上回った B：目標を達成できた C：目標にわずかに届かなかった D：不十分

| 評価項目 | 具体的目標 | 具体的方策 | 評価 | 達成状況及び次年度への課題 | |
|----------------------|--|--|---|---|--|
| 校務分掌 | 図書 | 情報センターとしての図書室環境を整備する。 | わかりやすい蔵書の配置・整備に務め、図書室を利用しやすい環境に整備する。 | B | 【達成状況】 ○水害により図書の購入ができなかった分、来年度新しい本をそろえていきたい。 ○環境は、季節感や本の見せ方を工夫したが、新刊本がないことで生徒の使用が少なかった。 ○無断持ち出しがないように徹底したい。 ○夏期休業中、冬期休業中も登校日と同様に開館することができた。 ○図書だよりを予定どおり、発行できた。 ○水害のため図書室を授業、会議等多方面に利用することで結果的に利用率が高まった。 【次年度への課題】 ○新刊本を購入して、生徒の読書に対して興味関心を高めたい。 ○図書の無断持ち出しを防止しながら、一方で図書室利用率を高めていく方法を考えて行かねばならない。 |
| | | | 原則として、長期休業中も開館し、生徒の図書室利用に対応する。 | A | |
| | | 読書指導と読書の推進を図る。 | 1年生全員クラス毎に図書室利用のオリエンテーションを実施する。 | A | |
| | | | 新刊本をカラーコピーし、廊下・昇降口に掲示する。 | B | |
| | | | 職員に対する購入希望図書の調査回数を増やすとともに、随時生徒・職員の購入希望を受け付ける。 | D | |
| | | | 生徒発行の「図書室だより」で、新着図書案内を行う。 | D | |
| | 渉外 | PTA各種行事、会合への保護者の参加率を高め、家庭との連携を密にする。 | PTA総会や授業参観への出席率が昨年度の47%以上になるよう工夫をする。 | B | 【達成状況】 ○PTA総会の出席率は43%で昨年をやや下回った。日程が昨年と違ったことが影響したかもしれない。 ○PTA研修視察旅行とPTA支部研修会は水害のため自粛になった。その予算は生徒のために使われた。 ○PTA本部役員会で水害に際し、なにができるか話し合い、会員から寄付を募ることになった。本部役員から各支部に働きかけ、約50万円が集まり、会長から学校側へ渡された。会員同士のコミュニケーションと協力体制がうまくとれた。今後も会員同士のコミュニケーションを大切にしたい。 ○同窓会の役員を増員したが、若い役員は会合の出席率が低い。 ○スクールバスの運賃は、国土交通省の新基準に従い、9月から値上げをせざるをえなかった。スクールバス運行委員会を中心に、今後の値上げがおこなわれないよう業者と交渉していく。 【次年度への課題】 ○PTA総会の出席率の向上。 ○同窓会の若い役員は会合の出席率が低いので、今後とも工夫が必要である。 ○スクールバス運行委員会を中心に、今後の値上げがおこなわれないよう業者と交渉していく。 |
| | | | 学校の教育活動を積極的に広報するため、PTA広報紙の充実をはかる。 | B | |
| | | | 会員相互の親睦をはかるため、保護者対象の研修旅行等を実施する。 | B | |
| | | | PTA支部研修会への出席率が向上するよう声かけをする。 | B | |
| | | 同窓会の組織強化に努める。 | 副会長、常任理事の増員を検討する。 | B | |
| | | スクールバスの円滑な運行をはかる。また、新たな運賃制度と消費税への対応を検討する。 | スクールバス運行委員会において、常に問題点を改善していく。 | B | |
| | 情報管理 | HPを通して、教育活動の公表に努める。 | 昨年に引続き生徒専門委員会を活用し、ホームページの内容を随時更新し、情報を発信する。 | A | 【達成状況】 ○ホームページの更新は、更新時期に合わせ不具合なく行うことが出来た。USB等外部記憶装置の使用について、水害で多くのPC機器が被害を受け9月からガイドライン通り行うことが出来なかった。クラウドの構築も年度末にずれ込んでしまった。システム変更の不具合は無かったが、被害を受けたシステムの復旧に手間が取られ、新しいシステムへの整備が後手になってしまった。 【次年度への課題】 ○新しいシステムへの整備を進めたい。 |
| | | HPの運営に伴うガイドラインの作成を行う。 | 県の運営要項に沿ったガイドラインの作成をする。 | B | |
| | | 情報の保護・管理に努める。 | 手引きに沿った個人情報の保護を、適正に管理する。 | B | |
| 有線LANに伴うシステムの整備に努める。 | | システムの変更の際に、異常が出ないよう努める | A | | |
| 学年 | 一学年 | 基本的な生活習慣の確立に努める。 | 欠席・遅刻・早退を極力しないよう努力させる。高校生にふさわしい服装頭髪で生活させる。 | B | 【達成状況】 ○基本的な生活習慣や授業の態勢作りについて、学年集会やHRを通して注意喚起してきたが、女子の服装(短いスカート)や授業への取り組み等で、問題のある生徒がいる。また言葉遣いや態度等でマナーが身に付いていないことから教員とトラブルを起こした生徒もいた。 【次年度への課題】 ○上記の点を次年度以降も粘り強く地道に指導していきたい。 |
| | | 基礎学力を身につけさせ、授業環境の質の向上に努める。 | 朝ドリルの実施、チャイムでの着席、ケータイの授業開始前の提出、私語・居眠り等をなくす等の指導を徹底する。 | B | |
| | | 資格取得に食欲に取り組ませる。 | 1学年で取得すべき資格について、商業科の指導を学年をあげて支援する。 | A | |
| | | 進路意識を高め、コミュニケーション能力の育成に努める。 | ガイダンス及び面談の複数回の実施。挨拶の励行や言葉遣い等のマナーについてもその大切さを喚起していく。 | B | |
| | | 充実した学校生活をつくらせる。 | 部活動への加入率と定着率を高め、学年行事も積極的に企画していく。 | B | |
| | 二学年 | 進路意識の高揚とコミュニケーション能力の育成に努める。 | インターシップやオープンキャンパスへ自主的に参加するよう促す。外部講師のもとで面接指導を年5回以上実施する。 | B | 【達成状況】 ○インターシップやオープンキャンパスは、担当教員を通してほぼ計画通り実施することができた。また、模擬面接等においては、次年度につながるよう生徒自ら主体的に行っていた。 ○昨年同様、相変わらずチャイムが鳴ってから準備を始めるなど、授業に臨む意識が相変わらず低い。 ○検定全体の合格率は、情報ビジネス科約70%、商業科45%と目標を若干下回ったが、情報ビジネス科の個々の努力は評価したい(日商2級2・3級28,3種目4)。 ○部活動の加入率は、維持することができた。各部において各自中心メンバーとして活躍を期待したい。 ○生徒指導の件数は、年度後半になるにつれ減少し、昨年度と比べると落ち着いた態度になった。また担任と保護者が連絡を密にすることで信頼関係は保たれている。 ○挨拶の遂行だけは、教員からだけでなく生徒自ら率先してできている。 【次年度への課題】 ○授業開始時に注意されなくても準備して開始を待つ指導を継続していく。 ○最終学年の卒業間際まで検定に対する意識持つ指導を継続する。 ○これまでの態度を悔い改め、最高学年としてもっと鬼怒商生としてのプライドを持たせたい。 |
| | | 授業環境の質の向上に努める。 | チャイムで始まりチャイムで終わることを意識づける。正しい挨拶や身だしなみ、携帯電話の提出を徹底する。授業中の私語はゼロにする。 | C | |
| | | 情報ビジネス科の特徴を活かした指導を実現させる。 | 各種検定試験の合格率80%を実現する。商業科においても50%を実現する。 | C | |
| | | 部活動での主体的活動を担う。 | 部活動加入率40%を維持し、学校のPR活動にも貢献する。 | B | |
| | | モラルを重んじ、規則を守るよう啓発していく。 | 鬼怒商生であることにプライドを持たせ、学校のイメージをくずさぬよう節度ある行動を取らせる。特別指導を年間一ケタとするために、家庭との連絡を密にし、生徒指導における小さなミスを見逃さず学年一丸となって早期発見・早期解決に努める。 | B | |
| 三学年 | 社会人になることを意識したマナーの定着とコミュニケーション能力の向上をはかる | 総合実践の授業を始め、全ての授業での挨拶指導や服装指導、言葉遣い等の指導をとおし、最終学年であることを自覚したマナーの定着を図る。また、英語や国語、学年集会等でスピーチを取り入れ、人前で自分の考えを積極的に話す機会を与え、自信を持って人と接することができるようにする。 | B | 【達成状況】 ○挨拶や言葉遣い等、社会人として必要なマナーを身に付けることができたが、服装・頭髪等の身だしなみの点で指導があった。 ○授業や学年集会では、生徒のスピーチを行えた。また日頃から国語や英語の授業を通して人前で話しをさせていたため、自分の考えを的確に分かりやすく話す能力が身に付いた。また、伝えたいことを正確に聞き取り、お互いの考えを深め合い、相互理解や人格尊重といったコミュニケーション能力の向上を図ることができた。 ○キャリア教育に関しては、三年間の計画的なガイダンスにより、生徒の能力や適性、興味関心に応じて、自分の進路について自ら考え、選択させることができた。進学・就職内定率も、ほぼ100%実現している。 ○生徒指導面に関しては、3年間を通して欠席が少なかった。特別指導を受ける生徒が数名いたが、反省を促し、生徒・保護者・学校の信頼関係を構築することができた。 ○学年会を頻繁に行い、情報の共有を図ることで生徒の問題行動等について未然防止や迅速な対応が取れた。 ○検定試験に関しては、全商3種目1級は各クラスとも目標を大幅に上回ったが、漢検・日商簿記では達成できなかった。 【次年度への課題】 ○次年度の課題事項として、日頃から更に、生徒の実態把握と情報収集を心掛け、複眼的に生徒を捉え、迅速で適切な対応を心掛け、特別指導のないようにしたい。 ○高度資格の取得については、更に専門高校との連携を図って対策を取ることが必要。また、学年全体でモチベーションを上げ、維持させる指導が大切である。 | |
| | 段階的なキャリア教育の集大成として、生徒全員が自分の意思で進路を決定し、実現させる。 | 1年次からの進路ガイダンス、就職・進学希望別学習、進路LHR等をおし、自己の適性を見極め、具体的な努力目標を持たせ、進路希望を実現させる。 | A | | |
| | 全員卒業を実現させる | 最後まで気を抜かず、高校生としての自覚を持って学校生活を送るように指導する。また、日頃から面談や保護者との連携を密にし、いじめや生徒指導上の問題行動を事前に防ぎ、充実した学校生活を送らせる。 | A | | |
| | 商業科の生徒に、最後まで諦めず様々な資格を取得させる。 | 漢字検定試験3級合格者100名・全商1級3種目合格者、各クラス3名 | A | | |
| | 情報ビジネス科の生徒に高度資格を取得させる | 全商1級3種目合格者を80% ITパスポート(情報処理技術者試験) 5名、日商簿記検定試験2級 10名、3級 29名 | C | | |

※ 評価基準 A：目標をはるかに上回った B：目標を達成できた C：目標にわずかに届かなかった D：不十分